

平成 25 年度 教師海外研修 研修報告書

派遣国：タンザニア

学校名：横浜市立矢向中学校

氏名：田中淳一

1. 今回の研修における目的やねらい

- (1) タンザニアという国で1つでも多くの発見をし、自らが感じたこと、発見したことを授業（集会）において日本の子どもたちに伝える。また、より良い授業内容を追求する。
- (2) 11日間行動を共にする他の参加者からの意見・発見に対して積極的に耳を傾け、自らの見識を広げる。
- (3) 一期一会。一生に一度となるであろうタンザニア人との出会いを大切にする。両国の文化紹介等の交流を通し、お互いに一生忘れることのできない思い出を作る。

2. 目的やねらいがどのくらい達成されたか

上記 (1) ~ (3) に対して。

- (1) 予想以上に多くの発見を日々することができた。例えば、木の枝を3本だけ使い作った「サッカーゴール」。これを、どうやって日本の子どもたちに伝えるか？自らの異文化体験を日本の子ども達にどう伝えれば理解が深まるか、そして心に残るか。授業で扱える「財」（教材）は多く得たので、大切なのはこれからの授業づくりにあると感じている。
- (2) 例えば「沿道で売られていた多くのトマト」という1つの景観に対しても、同行した9人が感じたことは、それぞれである。毎晩のふり返しにおいて、お互いの「気付き」「感じたこと」を共有できたことは、何よりの財産となった。
- (3) アフリカの大地で、現地の中学生と「ラジオ体操」を行い、「ソーラン節」を踊り、「ふるさと」を歌う。言葉にすると、改めて「一生に一度」の体験をすることができたと感じる。交流した子ども達のはじける笑顔こそが、最高の思い出となった。

3. タンザニアから学んだこと

日本人が大切にしている「道徳観」に似たものをタンザニアの人々からも感じた。「ジャンボー」と挨拶をすると、必ず笑顔で返事が返ってくる。お年寄りを大切にする国民性。訪問した中学校では、子ども達が我々のために率先して席をつめ、イスを譲ってくれた。我々日本の教員（大人）が子ども達に「まず身につけさせるべきこと」を再確認した11日間でもあった。

また、本当の「豊かさ」とは何かを考えるきっかけともなった。タンザニアの国民総所得は540ドルで日本の75分の1。区分は「最貧国」になるという。11日間の研修で知ることができたタンザニアは、決して「かわいそうな国」ではなかった。農村部に行くと、貧しい暮らしの中にも悲壮感はなく、笑顔があり明るさを感じた。そんなタンザニアは、近年、前年比7~8%の割合で経済成長をとげている。街では、泥だらけの服を着た少年が携帯電話を手に操作していた。物質的な豊かさが進む国の姿を垣間見ることができた。日本では、物質的な豊かさが、国民に便利さとともに弊害をもたらし、大切なものを多く失ったような気がする。タンザニアの「発展」と「幸せ」を考えると、複雑な気持ちになった。

4. 今回の研修経験をどのように教育活動に活用しようと思っているか

今回の研修でたくさんの「財」を得ることができた。例えば、タンザニアの偉大な大統領「ニエレレの生き方」も授業で扱いたいことの一つである。タンザニアはアフリカの国々の中ではめずらしく「紛争」との関わりがほとんどない。それは、この偉大な大統領の影響が大きい。120以上ある部族を「タンザニア人」としてまとめ上げた数々の政策。また、金銭に清廉であり自ら貧しい晩年を過ごした。現在でも空港名として彼の名が残り、功績が称えられている。隣国、ルワンダでは1994年に国民同士による虐殺があり数十万人の命が奪われた。その比較も「紛争」がなくならない世界の現状を学ぶ教材になると感じている。

5. 今回の研修に参加してよかったことや、よりよくするための提案

「良かったこと」は多々あるが、何といても同行した仲間の意見、発見をたくさん聞いたことである。9人9色の考え方、ものの捉え方があり、それを聞く毎日の「振り返り」の時間が何より有意義な時間となった。

また、世界を舞台に活躍する日本人と多く接することができたことも、貴重な経験となった。出会ったそれぞれの人物に「何かを成し遂げよう！」という信念があり、深い感銘を受けた。現在の自分自身を省みるきっかけともなった。

「JICA主催の研修だからこそ実現できた」という活動が多くあり、本当に貴重な体験をさせていただいた。「よりよくするための提案」として、O&ODプロジェクトに対する研修のさらなる充実を挙げたい。現地の中学校との交流が2回(2日)あったが、1回でもよい気がする。その分を、O&ODプロジェクトの理解を深める活動、例えば村人とのさらなる懇談、作業体験等に当ててもよい気がした。ただし、中学校での交流は、1回目よりも2回目の方がスムーズに行うことができ、出し物等の完成度も上がったという面もあるので、その判断は難しいところである。

6. 海外研修での役割(日直や各担当)を振り返っての感想・提案など

ホテル係を2名(男女各1名)作ったほうが良いと感じた。JICA 田中さんの負担が大きい。チェックイン・アウトの手続き、ホテルでのトラブル対応(お湯がでない、ミネラルウォーターがない等)などは、参加者の中で対応した方が良いと感じた。

また、今年度は各日の日直が各地での代表挨拶等を行ったが、「みんなが貴重な経験ができる」という点で良かったのではないだろうか。

7. その他、研修全般を通じての感想・意見など

本当に有意義な11日間を過ごすことができた。個人旅行では到底体験することができないプログラムであり、社会科教師としてはもちろん、一人の日本人として貴重な経験をすることができた。JICAに心より感謝している。

8. 今後の本研修参加者へのアドバイスなど

現地の人に質問・インタビューをする機会が多くあるかと思います。その際に、一方的にこちらから質問を続けるのではなく、「日本では…」「私の場合は…」を含めるとよいと思います。現地の人「日本のことを知りたい!」という思いは想像以上のものでした。まずはこちらの話をする事で、より多くの本音を聞き出せるかと思います。

9. 各訪問先等の所感

| 日 時 | テーマ | 所 感 |
|---------------------|--|---|
| 8月11日(日) -12日(月) | 日本からタンザニアまでの 移動中および現地到着 | 経由地のドーハの空港内では、早速多くの発見があった。男女別のモスク、各国のコードに対応できるアダプター、滑り台のある子どもの遊び場等…。 |
| 8月12日(月) | JICA タンザニア事務所表敬 研修ブリーフィング | JICA タンザニア事務所の大西所長が感銘を受けたという松下幸之助の言葉「お客さんが欲しいと思っている商品をつくるな。役に立つ商品を作れ。」に JICA の活動理念を感じた。 |
| 8月12日(月) | 本日の振り返り | なし |
| 8月13日(火) | JICA タンザニア事務所 研修ブリーフィング | 木全次長のお話を伺い O&OD に対する具体的なイメージがわいてくる。同時に「現地の子はどのように感じているのだろうか？」という根本的な疑問も。 |
| 8月13日(火) | モロゴロへ移動 | 道路沿いの景色に異国を感じる。特に停車中の車に対しての売り子の販売物に驚かされた。アフリカ全土の地図、消火器、ハンガー、ラック…。買い手がいるから商売として成り立っているのだろう。 |
| 8月13日(火) | 本日の振り返り | 仲間の発見、意見を聞くことができる貴重な時間 |
| 8月14日(水) | Maseyu 村 Mazizi 地区 Maseyu 村 Mjini 地区 サイト視察 | 青空のもとイスを用意していただき、いざ村人達と対面。初めてのスワヒリ語での自己紹介はやはり緊張。温かい眼差しで迎えてくれたことに感謝。その後、地元の小学校、造り途中の幼稚園・診療所、レンガ銀行等を視察。各活動が村人たちの自主的な行動であることを理解した。と同時に村人達が感じている本音に興味を持つ。明日のインタビューが待ち遠しい。 |
| 8月14日(水) | 専門家との懇談会 | JICA の柿崎専門家、田中専門家、二階さんとじっくり話す機会をいただく。世界を舞台に活躍する男たちの話はアツい。柿崎専門家の「タンザニアでの O&OD が成功するかは分からないが…、この仕事に人生をかけていますから！」という言葉が特に印象に残っている。 |
| 8月14日(水) | 本日の振り返り | 明日の村人へのインタビューに向けての確認 |
| 8月15日(木) | Maseyu 村 Mjini 地区 関係者インタビュー | いよいよ村人へのインタビュー。日本側 3 人に対し、村人たちは計 6 名（うち 2 名が女性、1 名は村長さん）であった。一方的な質問にならないように、まずはこちらに対する質問から伺った。最後に「O&OD は自分達の役に立っているか？」という質問をした際に、ある村人の言った「村での会議じたいが我々の教育となっており、大きな意味が |

| | | |
|----------|----------------------|---|
| | | ある」という言葉が印象に残っている。 |
| 8月15日(木) | 小学校視察、村人との交流 | 学校によって校風が違うのは、日本と同じであると感じた。 |
| 8月15日(木) | 市内視察 (モロゴロ) | 本屋で小学校の歴史の教科書を購入。街の市場へも。売り手に対し、買い手の数が極端に少ない。 |
| 8月15日(木) | 隊員との懇談会 | 赤堀隊員と夕食をともにする。学校での体罰の話等で盛り上がる。タンザニアでは一般的に行っているようだ。 |
| 8月15日(木) | 本日の振り返り | 明日の交流に向けての確認 |
| 8月16日(金) | ムグラシ中等学校 赤堀隊員 | 全校生徒が集まり、盛大に迎えてくれる。赤堀隊員のクラスで日本の紙芝居紹介、習字、かぶと作り等を行う。積極的に取り組む子ども達の姿にこちらも嬉しくなる。 |
| 8月16日(金) | ミクミ国立公園通過 モロゴロへ移動 | 野生のキリン、象、猿、シマウマなどに出会えた。感動！ |
| 8月16日(金) | 本日の振り返り | 本日の交流の振り返り、次回の交流の確認 |
| 8月17日(土) | バガモヨへ移動 | インド洋に接するホテル |
| 8月17日(土) | 市内視察 (バガモヨ) | 魚市場、奴隷博物館等を視察。釣った魚をそのまま浜辺で天ぷらにし、販売していた。一方、街中に魚屋はなし。冷凍技術が原因か。 |
| 8月17日(土) | 本日の振り返り | これまでの「気づき」の共有 |
| 8月18日(日) | ダルエスサラームに移動 | インド洋に上る朝日を見学。その後、ダルエスサラームに移動。改めて車量の多さに驚く。 |
| 8月18日(日) | 教材等購入 | ティンガティンガ村にて、教材等購入。キリマンジャロ山が描かれている絵が多く、タンザニア人にとっての存在の大きさを再認識。 |
| 8月18日(日) | 本日の振り返り | 帰国後の授業プランを練る。明日の交流に向けての確認。 |
| 8月19日(月) | キパンランガンダ中等学校 米澤隊員 | 落ち着いた校風。校長先生の温厚な人柄が印象的。交流は一度目よりもスムーズにいった。ラジオ体操に対する反応が一番良い。 |
| 8月19日(月) | 教材等購入 | 街のスーパーでキリマンジャローコーヒーを購入 |
| 8月19日(月) | 本日の振り返り | 帰国後の授業プランの発表 |
| 8月20日(火) | JICA タンザニア事務所 報告会 | 本研修での所感を一人5分程度発表 |
| 8月20日(火) | 在タンザニア日本大使館 表敬訪問 | これまでに生じた我々の疑問点に対して、大使自ら丁寧に説明して下さった |
| 8月20日(火) | タンザニアから日本までの | 疲れからか、ほとんど睡眠 |
| 8月21日(水) | 移動中および日本到着 | 多くの貴重な経験をさせていただいたことに感謝 |